

令和6年度 評価事業一覧

No.	事 務 事 業 名	担当課名	班名	令和6年度 評価	令和5年度 評価
1	子どもの不審者等対策事業	教育推進課	教育総務・指導班	A	A
2	入学祝金事業	教育推進課	教育総務・指導班	A	A
3	就学援助事業	教育推進課	教育総務・指導班	A	A
4	奨学資金事業	教育推進課	教育総務・指導班	A	A
5	学力向上対策事業	教育推進課	教育総務・指導班	A	A
6	友好都市との学校間交流推進事業	教育推進課	教育総務・指導班	B	B
7	官学連携事業	教育推進課	教育総務・指導班	A	A
8	子どもの感性・創造力育成事業	教育推進課	教育総務・指導班	A	A
9	ふるさと教育・キャリア教育推進事業	教育推進課	教育総務・指導班	A	A
10	国際教育推進事業	教育推進課	教育総務・指導班	B	B
11	ICT活用教育推進事業	教育推進課	教育総務・指導班	A	A
12	奨学金返還助成事業	教育推進課	教育総務・指導班	A	A
13	タイ王国との中学生交流事業	教育推進課	教育総務・指導班	A	A
14	家庭教育事業	生涯学習課	社会教育班	A	A
15	少年教育事業	生涯学習課	社会教育班	A	A
16	青年・成人教育事業	生涯学習課	社会教育班	A	B
17	高齢者教育事業	生涯学習課	社会教育班	A	A
18	芸術文化推進事業	生涯学習課	歴史文化財班	A	A
19	芸術文化交流促進事業	生涯学習課	社会教育班	B	— (評価無し)
20	芸術文化団体支援事業	生涯学習課	社会教育班	B	B
21	美郷カレッジ開催事業	生涯学習課	社会教育班	A	A
22	伝統行事等伝承事業	生涯学習課	歴史文化財班	B	B
23	わら細工文化事業	生涯学習課	歴史文化財班	A	A
24	ブックスタート事業	生涯学習課	歴史文化財班	A	A
25	読書・視聴覚環境向上事業	生涯学習課	歴史文化財班	A	A
26	文化財保護事業	生涯学習課	歴史文化財班	B	B
27	埋蔵文化財調査事業	生涯学習課	歴史文化財班	B	B
28	民俗文化財継承活動推進事業	生涯学習課	歴史文化財班	A	A
29	少年スポーツ振興事業	生涯学習課	スポーツ振興班	A	A
30	スポーツ活動支援事業	生涯学習課	スポーツ振興班	B	B
31	連携企業スポーツ活動推進事業	生涯学習課	スポーツ振興班	A	A

令和6年度

事業評価シート

事務事業名	子どもの不審者等対策事業	担当課名		教育推進課
		課長名		佐々木 寿人
総合計画の 施策名	暮らしの安全安心の確保	記入者	班	教育総務・指導班
			職・氏名	上席主査 高橋 穰
			電話番号(内線)	0187-84-4914(2406)

事業の目的	子どもたちを不審者から守り、安全な学校生活を送ることができるよう不審者対策事業を行う。また、安全・安心メールを利用した迅速で正確な情報提供を行う。				
事業の内容	・児童生徒の登下校時の見守り活動 ・安全・安心メールによる不審者、危険動物、気象、熱中症、感染症等の情報提供				
事業の対象	児童生徒、町民の方				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	48	48	48	48	48

評価年度目標 (目指すべき姿)	・安全・安心メール連絡システムを運用し、迅速で正確な情報を保護者及び関係者に伝え、児童生徒の安全を守る。 ・地域の方との連携により子どもたちを不審者等から守る。				
実績・成果等 (数値)	・スクールガードリーダーやPTA等による登下校時の見守り活動を実施した。 ・安全・安心メール連絡システムは、全認定こども園、小学校、中学校の保護者が登録し、不審者情報のほか、危険動物、気象、熱中症及び感染症の注意喚起などについて、迅速かつ正確な情報を提供した。				

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できていない	
内部評価	A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	・スクールガードリーダー等による登下校の見守り活動を実施したことにより、子どもたちを不審者等から守るとともに、路上での交通安全活動にも貢献できた。今後もスクールガードリーダーの配置を継続し、見守り活動を充実させていきたい。 ・安全・安心メールにより、保護者等に対し不審者情報のほか熊目撃情報の注意喚起、天候等による学校行事の延期や中止など様々な場面で、より迅速で正確な情報を伝えることができた。近年多発している熊の目撃情報をはじめ、必要な情報を今後も継続し保護者及び関係者に伝達できるよう取り組んでいきたい。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	内部評価のとおり
------	---	--------	----------

事業評価シート

事務事業名	入学祝金事業	担当課名		教育推進課
		課長名		佐々木 寿人
総合計画の 施策名	希望が叶う結婚・出産・子育ての支援	記入者	班	教育総務・指導班
			職・氏名	班長 高階泰充
			電話番号(内線)	0187-84-4914(2410)

事業の目的	小学校または中学校に入学する際に、入学祝金を支給することにより、入学時における保護者の経済的負担の軽減、子育てへの支援及び児童生徒の健全な育成を図る。				
事業の内容	小学校または中学校への新入生の保護者を対象に入学祝い金を支給する。 ・小学校1年生 1人につき30,000円 ・中学校1年生 1人につき30,000円				
事業の対象	美郷町に住所を有している小・中学校への新入生の保護者。				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	7,057	6,660	7,350	7,050	5,790

評価年度目標 (目指すべき姿)	翌年度に小学校または中学校への新入生の保護者に対し入学祝金を支給する。				
実績・成果等 (数値)	・町広報紙やホームページ等で周知を図ったほか、把握している各小中学校の入学予定者の保護者に対し、個別に通知を送付し申請を呼びかけ、申請が遅れている家庭にはこちらから確認の連絡を入れ、申請忘れがないよう取り組んだ。 ・入学祝金支給人数（中学生:134人、小学生:101人）				

事業 の 評 価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分にできている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できていない
内部評価	A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている	
判定説明 及び考察	各学校、園と連携しながら、対象となる新入生の保護者に対し、入学祝金について周知し、令和7年度に入学する新入生全員の保護者に入学祝金を支給することができた。 保護者の負担軽減及び子育て支援に結び付いているものと考えられるため、今後もこの事業を継続していきたい。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	内部評価のとおり
------	---	--------	----------

事業評価シート

事務事業名	就学援助事業	担当課名		教育推進課	
		課長名		佐々木 寿人	
		記入者	班	教育総務・指導班	
職・氏名	主任 土田俊弥				
総合計画の施策名	次代を担う子どもの育成	電話番号(内線)		0187-84-4914(2414)	

事業の目的	経済的な理由で就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、教育に必要な経費を援助することで保護者の経済的負担を軽減し、義務教育の円滑な実施に資する。				
事業の内容	生活に困窮していると認めた児童生徒及び支給要件を満たす特別支援学級等に在籍する児童生徒の保護者に対し、学用品費や通学用品費、学校給食費、医療費等の給付金を支給する。				
事業の対象	就学援助費は、生活保護法(昭和25年法律第144号)第6条第2項に規定する要保護者とそれに準ずる程度に困窮していると認めた者。特別支援教育就学奨励費は、町内小・中学校の特別支援学級等に在籍する者のうち、支給要件を満たす者。				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	10,999	7,495	11,761	7,566	10,906

評価年度目標 (目指すべき姿)	制度の周知を広く行い、就学に必要な経費を補助し、教育機会均等の保持を図る。				
実績・成果等 (数値)	・小・中学生の全保護者への個別通知及び町広報・町づくりガイド、町ホームページに掲載し、広く制度の周知を行った。また、関係課や各学校と連携を図った。 ・社会情勢の変化に伴う経済的影響を受けている家庭の負担軽減の一助となった。 ・令和6年度就学援助児童生徒数 小学生41人 中学生29人 計70人 (令和5年度 小学生46人 中学生30人 計76人) ・令和6年度特別支援教育就学奨励児童生徒数 小学生17人 中学生12人 計29人				

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できていない	
内部評価	A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	関係課・各学校と連携しながら制度の周知を行い、対象者の経済的負担を軽減している。社会情勢や経済・雇用情勢の変化等に応じ、適宜適切に制度の見直しを図ることで、教育機会の均等に向けて事業を推進していきたい。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する		
外部評価	A	評価委員意見	内部評価のとおり

事業評価シート

事務事業名	奨学資金事業	担当課名		教育推進課
		課長名		佐々木 寿人
総合計画の 施策名	次代を担う子どもの育成	記入者	班	教育総務・指導班
			職・氏名	上席主査 高橋 穰
			電話番号(内線)	0187-84-4914(2406)

事業の目的	奨学資金は、教育機会均等を保証するため、経済的理由により高等学校、高等専門学校、専門学校、短期大学、大学の修学困難な者に対し、学資を貸与し、有用な人物の育成を目的とする。			
事業の内容	上級学校に在籍し、経済的理由で修学困難な者に対して資金を貸与する。 ・高等学校 月額15,000円 ・高等専門学校、専門学校、短期大学、大学 月額40,000円以内(1万円単位)			
事業の対象	奨学生を志望する者で、次の条件を具備する者。 (1)身体強健、品行方正で学業優良な者 (2)美郷町住民の子弟 (3)学資金に困難な者			
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算
	8,421	5,355	8,358	4,334
				6,378

評価年度目標 (目指すべき姿)	①貸与: 予算の範囲内で、経済的理由等により修学困難な者に学資を貸与し、有用な人物の育成を目標とする。 ②償還: 返還者一人一人の経済状況に応じた返還計画に基く償還、また未納者に対しては催告の回数を増やす等対策を行い、収納率の向上に努めることを目標とする。			
実績・成果等 (数値)	①貸与 ・町広報紙と町ホームページで奨学生募集について周知した。大学枠3人、専修学校枠1人の申請に対し、選考の結果、大学枠2人、専門学校枠1人の貸与を決定した。 貸与額: 令和6年度奨学生貸与者数9人(うち新規貸与者数3人) ②償還 ・返還者との納付相談、また未納者への通知、電話、訪問等の対策により収納率の向上に努めた。 償還額: 収入未済額=2,050,200円、未納者数=8人、収納率=87.70%(前年比+3.96) うち現年度分= 208,000円、未納者数=3人、収納率=98.51%(前年比+0.02) 過年度分=1,842,200円、未納者数=5人、収納率=31.70%(前年比+13.52)			

事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
内部評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できていない
判定説明 及び考察	貸与については、年々申請者が減少傾向にある。償還については、納付相談、また未納者への電話や通知等による催告等の対策を行い、現年度分98.51%の収納率で前年度を上回った。今後も経済的な理由により大学等の修学に困難な美郷町出身学生に対し、学資を貸与し、有用な人物の育成を支援するとともに、収納率向上にもしっかりと取り組んでいきたい。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	内部評価のとおり
------	---	--------	----------

事業評価シート

事務事業名	学力向上対策事業	担当課名		教育推進課
		課長名		佐々木 寿人
総合計画の 施策名	次代を担う子どもの育成	記入者	班	教育総務・指導班
			職・氏名	教育推進監 井合和人
			電話番号(内線)	0187-84-4914(2403)

事業の目的	児童生徒の課題に対応した取組や新聞活用教育を推進し、学力や読解力、判断力等の向上を図る。				
事業の内容	・基礎学力の定着度調査、計画的な学習を実施するための検査の実施 ・学習状況調査の分析・活用と校内研修改善、授業力向上支援事業の実施 ・新聞活用教育の推進				
事業の対象	・学力検査(国語・算数):全小学校1、2、3年生 ・知的発達検査:全小学校2、5年生 中学校1年生 ・校内研修改善・授業力向上研修会 ・新聞活用教育:全小学校4、5、6年生 中学校全学年				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	2,040	1,877	1,845	1,653	1,739

評価年度目標 (目指すべき姿)	・学習状況調査と学力検査・知的発達検査の実施により状況を把握し、課題の改善に向けた研修を行う。 ・新聞を読むことで、身の周りの様々な事象に対して、興味関心をもち、視野の広い児童生徒の育成を目指す。				
実績・成果等 (数値)	・美郷町校内研修改善・授業力向上推進事業として、秋田大学教授を指導者に迎え、各小中学校で算数・数学の授業研究会を各校1回実施 ・美郷町学力向上授業改善研修会の実施。令和4年度から、中学校の教員も参加。 ・個々の教員の授業改善をねらいとする、全教員一人1回以上の町内他校の授業参観実施 ・令和6年度県学習状況調査(小4～中2)における県平均以上の教科:21教科中12教科 (小学校4年～6年:11教科中8教科、中学校1・2年:10教科中4教科) ・学力検査(小1～小3)における全国平均以上の教科:6教科中4教科 ・小中学校ともに5月より対象児童生徒に子ども新聞・中高生新聞を週1回配付				

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分にできている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できていない
内部評価	A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	県学習状況調査や学力検査の結果を受け、児童生徒の学習到達度及び課題を分析し、各学校と連携して学力向上に取り組んだ。また、児童生徒の学力向上を図るために、秋田大学教授を指導者とした授業研究会や町内小中学校の教員を対象とした授業改善研修会を行った。さらに、毎週1回の新聞配付や閲覧コーナーの設置に加え、各校では新聞記事を活用した様々な取組が行われており、新聞が児童生徒にとって身近なものとなってきている。今後も児童生徒一人一人の学力や読解力、判断力等を最大限に伸ばしていくために、事業の充実を図っていきたい。		
事業の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	内部評価のとおり
------	---	--------	----------

事業評価シート

事務事業名	友好都市との学校間交流推進事業		担当課名		教育推進課
			課長名		佐々木 寿人
総合計画の 施策名	次代を担う子どもの育成		記入者	班	教育総務・指導班
				職・氏名	教育推進監 井合和人
				電話番号(内線)	0187-84-4914(2403)
事業の目的	・農村部と都市部の交流を通じ、児童の豊かな人間性を育む。 ・授業への参加や地域の方々とのふれあいを通して、それぞれの学校や地域のよさ、違い、課題などをつかむ。				
事業の内容	・千畑小学校と港区立御田小学校の交流(昭和52年～) ・仙南小学校と文京区立千駄木小学校の交流(平成27年～) ・六郷小学校と大田区立高畑小学校の交流(平成28年～)				
事業の対象	・千畑小学校4～6年生、御田小学校4～6年生 ・仙南小学校5年生、千駄木小学校5年生児童 ・六郷小学校5～6年生、高畑小学校全校児童				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	900	600	900	600	900
評価年度目標 (目指すべき姿)	美郷町や自校の紹介を通してふるさとのよさに気付き、学校や地域に対する考え方やまわりの人たちとの接し方を見つめ直すきっかけとする。				
実績・成果等 (数値)	・仙南小学校から千駄木小学校へ16人、千駄木小学校から仙南小学校へ15人が訪問。 ・千畑小学校から御田小学校へ13人、御田小学校から千畑小学校へ23人が訪問。 ・六郷小学校と高畑小学校の訪問交流を検討したが、日程調整がまとまらず未実施。(R7再開を目指す)				
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)				
	☒ 十分必要である		☐ おおむね必要である		☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)				
	☒ 十分寄与する		☐ おおむね寄与する		☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)				
	☐ 十分できている		☒ おおむねできている		☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)				
☐ 達成できている		☒ おおむね達成できている		☐ 達成できていない	
内部評価	B		優れた取り組みがいくつかあり、成果が上がっている		
判定説明 及び考察	各小学校の実情に応じて、相互訪問交流を行っており、新聞や動画、オンライン等、教科の学習と結び付けた交流活動を実施した。活動を通して、児童は美郷町と交流地域との共通点や相違点に気付いたり、それぞれのよさを見つめ直したりすることができた。また、各校では交流先の学校から届いた新聞等を校内に掲示したり、交流の様子を学校報で紹介したりするなど積極的に情報発信している。六郷小では、3年間交流が行われていないため、委員会としても、実施に向けた取組をサポートしながら、学習交流や訪問交流について、R7年度の再開を目指したい。				
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する				
外部評価	B		評価委員意見	内部評価のとおり	

事業評価シート

事務事業名	官学連携事業	担当課名		教育推進課
		課長名		佐々木 寿人
総合計画の 施策名	次代を担う子どもの育成	記入者	班	教育総務・指導班
			職・氏名	教育推進監 井合和人
			電話番号(内線)	0187-84-4914(2403)

事業の目的	秋田大学、国際教養大学と町内の学校が相互交流を行うことにより、児童生徒に上級学校へのあこがれをもたせるとともに、異文化体験による国際理解を図る。				
事業の内容	秋田大学生によるコンサートの実施、国際教養大学の留学生を学校行事に招いたり、大学を訪問したりして交流する。				
事業の対象	町内小・中学校児童生徒				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	180	76	181	107	96

評価年度目標 (目指すべき姿)	美郷町内の小中学校が秋田大学、国際教養大学留学生との交流を通して、高い演奏技術に触れたり、国際感覚を磨いたりすることで、視野を広げる。				
実績・成果等 (数値)	・秋田大学・・・美郷フェスタ2024「秋田大学音楽教育研究室学生によるコンサート」の開催。(出演者13名、来場者数162名) ・国際教養大学・・・訪問交流を通して、美郷町内133名の児童が国際教養大学留学生との交流を行った。 ※独自アンケート「留学生との交流を通して、他の国の文化や生活を知り、関心を深めることができたか」 ・とてもそう思う90.5% ・そう思う7.9%				

事業 の 評 価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)			
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない	
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)			
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない	
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない	
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)			
☒ 達成できている			☐ おおむね達成できている	☐ 達成できていない
内部評価	A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている		
判定説明 及び考察	秋田大学生によるコンサートは、町民をはじめとした来場者が音楽に親しむ機会になったとともに、町内各学校の吹奏楽部の児童生徒にとっては、高いレベルの演奏技術に触れ、刺激を受けることができる事業であった。なお、節目となる10回目を終えることができたため、今後を見据えて事業を見直した結果、令和6年度限りで本事業を終了することとした。国際教養大学の留学生との交流は、各学校の希望に応じた交流活動の実施が可能であり、異文化への興味関心や理解、コミュニケーションへの意欲を高めることが期待できる現状を踏まえた工夫改善を図り、事業を実施していくことが重要であることから、今後も担当者間の連携を密にし、事業を実施していきたい。			
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する			

外部評価	A	評価委員意見	内部評価のとおり
------	---	--------	----------

事業評価シート

事務事業名	子どもの感性・創造力育成事業		担当課名		教育推進課
			課長名		佐々木 寿人
総合計画の 施策名	次代を担う子どもの育成		記入者	班	教育総務・指導班
				職・氏名	教育推進監 井合和人
				電話番号(内線)	0187-84-4914(2403)
事業の目的	各分野において第一線で活躍している方々の芸術鑑賞や様々な体験を伴う活動を通して、子どもの感性、創造力の育成を図る。				
事業の内容	・一流の音楽や芸術に触れる鑑賞会の開催 ・自由研究コンテストの実施 ・小学校4年生の宿泊体験活動の実施(宿泊施設:ワクアス) ・小学校6年生の交流会(美郷キッズわくわく交流会)の実施 ・学校交流音楽祭の開催				
事業の対象	・芸術鑑賞「ドリーム体験!ほんもの講座」:小中学校全児童生徒 ・自由研究コンテスト:小学校全児童生徒、中学校総合科学部およびインターアクト部 ・宿泊体験活動:3小学校4年生 ・美郷キッズわくわく交流会:3小学校6年生 ・美郷フェスタ学校交流音楽祭:町内小・中学校の金管バンド部・吹奏楽部、六郷高校吹奏楽部				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	2,765	2,399	3,548	3,154	3,296
評価年度目標 (目指すべき姿)	第一線で活躍している本物のパフォーマンスに触れたり、興味や関心をもったものに熱中して取り組んだり、研究を深めたりすることにより、子どもたちの感性を育み、視野を広げる。				
実績・成果等 (数値)	・ほんもの講座:小学校1~4学年「劇団民話芸術座観劇」大変よかった85.8%、よかった13.5% 小学校5~6年・中学校1~3年「わらび座観劇」大変よかった93.4%、よかった6.0% ・自由研究コンテスト:出品数209点(最優秀賞・優秀賞23点) 入場者数202人 ・宿泊体験活動:初めて家族と離れて宿泊62.4%、宿泊が楽しかった94.0%(複数回答) ・美郷キッズ交流会:他の学校の人と進んでふれあえた92.3%、協力して活動できた96.9% ・学校交流音楽祭:参加児童生徒数96名、来場者数250名				
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)				
	☒ 十分必要である		☐ おおむね必要である		☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)				
	☒ 十分寄与する		☐ おおむね寄与する		☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)				
	☒ 十分できている		☐ おおむねできている		☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)				
☒ 達成できている		☐ おおむね達成できている		☐ 達成できていない	
内部評価	A		優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている		
判定説明 及び考察	実施後のアンケート結果では、児童生徒の満足度も高く、事業の目的を達成することができたと捉えている。本事業は、どの活動も子どもの感性や創造力の育成を目指した内容であり、今後も実施方法や内容等を工夫しながら重点化を図りたい。				
事業の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する				
外部評価	A		評価委員意見	内部評価のとおり	

事業評価シート

事務事業名	ふるさと教育・キャリア教育推進事業	担当課名	教育推進課
		課長名	佐々木 寿人
総合計画の 施策名	次代を担う子どもの育成	記入者	班 教育総務・指導班
		職・氏名	教育推進監 井合和人
		電話番号(内線)	0187-84-4914(2403)

事業の目的	・将来の美郷を町の内外から担っていこうとするたくましい児童生徒の育成を目指して、美郷町の特色ある自然、歴史、文化、産業、観光、スポーツ、行政、教育などを記載したふるさと学習教材「ふるさと美郷は宝箱」の活用を図る。 ・地域の人的・物的資源をいかした美郷ふるさと活動やキャリアスクール等の体験的な活動を通して、望ましい勤労観・職業観を育む。				
事業の内容	・小学校5、6年生を対象に、キャリアスクール(職場体験活動)を実施 ・小中学校において地域の人材や産業を学ぶ美郷ふるさと活動を実施 ・美郷町ふるさと学習教材「ふるさと美郷は宝箱」の活用促進				
事業の対象	小学校5・6年生及び中学生				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	485	3,561	496	361	415

評価年度目標 (目指すべき姿)	町の教育資源を本にまとめて教材化を図り、これを活用しながら学習を展開することで、子どもたちの見識や視野を広げる。また、それを基盤として自らの進路や生き方を考える「ふるさと教育・キャリア教育」を推進する。				
実績・成果等 (数値)	・小学校5、6年生を対象に、キャリアスクール(職場体験活動)を実施した。 ※町内42企業・事業所の協力:7/24千畑小(75名)・7/25仙南小(88名)・7/26六郷小(85名) ※独自アンケート「進んで活動に取り組めた」(小5:74.2%・小6:90.2%)・「働くことの大切さを理解した」(小5:75.0%・小6:91.0%) ・小中学校において美郷ふるさと活動を実施した。 ・美郷町ふるさと学習教材「ふるさと美郷は宝箱」の活用促進を図り、活用事例集を作成した。				

事業 の 評 価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できていない
内部評価	A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている	
判定説明 及び考察	キャリアスクールを学校単位で実施し、美郷町内の企業・事業所での職場体験活動を通して進んで活動することや働くことの大切さを学び、美郷町への理解と愛着を深めた。各校でふるさと学習教材「ふるさと美郷は宝箱」を活用し、ふるさと美郷町を題材にした学習活動が展開された。小中学校における美郷ふるさと活動も定着しており、今後も地域と関わりを持った学習活動の充実を図っていきたい。R7年度は小学校3・4年生の社会科副読本を更新予定である。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する		
外部評価	A	評価委員意見	内部評価のとおり

事業評価シート

事務事業名	国際教育推進事業		担当課名	教育推進課	
			課長名	佐々木 寿人	
総合計画の 施策名	次代を担う子どもの育成		記入者	班	教育総務・指導班
				職・氏名	教育推進監 井合和人
				電話番号(内線)	0187-84-4914(2403)
事業の目的	新学習指導要領に対応した児童生徒への外国語教育の充実と国際交流の進展を図る。				
事業の内容	ALT(外国語指導助手)3人を小中学校に、英語専科教員1人を小学校に配置				
事業の対象	町内小・中学校児童生徒				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	17,159	17,159	17,159	17,159	17,357
評価年度目標 (目指すべき姿)	小中学校にALT、小学校に外国語専科教員を配置し、外国語教育の推進と充実を図る。				
実績・成果等 (数値)	・小中学校へ3名のALTを配置 ・小学校3・4年生の外国語活動及び5・6年生の外国語、中学校の英語の授業でTT(ティームティーチング)を実施 ・英語専科教員や担任とのTTを実施 ・令和6年県学習状況調査より「外国語活動・外国語の勉強は好きだ」(県平均との比較) 小4:83.5%(+3.8) 小5:81.0%(+5.0) 小6:80.5%(+7.0) 中1:68.5%(-2.4) 中2:66.0%(+1.5)				
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)				
	☒ 十分必要である		☐ おおむね必要である		☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)				
	☒ 十分寄与する		☐ おおむね寄与する		☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)				
	☐ 十分できている		☒ おおむねできている		☐ できていない
目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)	☐ 達成できている				
	☒ おおむね達成できている		☐ 達成できていない		
内部評価	B		優れた取り組みがいくつかあり、成果が上がっている		
判定説明 及び考察	ALTの配置により、各学校の外国語教育のねらいと指導計画に対応した授業を行うことができた。小学校では英語専科教員との連携も深まり、県学習状況調査では、「外国語が好き」と答えた児童生徒が県平均を上回る傾向が見られるようになり、楽しく分かりやすい授業づくりの成果が表れてきていると捉えている。しかし、小中学校ともに学年が上がるに従って、外国語活動及び外国語への興味関心に低下傾向が見られたため、教員とALTとの効果的なチームティーチングの充実を図りながら、外国語教育の充実につなげていきたい。				
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する				
外部評価	B		評価委員意見	児童生徒の外国語学習の興味だけで事業の評価するのではなく、教職員側の実績・成果の数値化や評価を行うことも必要である。	

事業評価シート

事務事業名	ICT活用教育推進事業	担当課名	教育推進課
		課長名	佐々木 寿人
総合計画の 施策名	次代を担う子どもの育成	記入者	班
		職・氏名	教育総務・指導班
		電話番号(内線)	教育推進監 井合和人 0187-84-4914(2403)

事業の目的	・GIGAスクール構想によるタブレット端末を活用して、学習活動の一層の充実を図る。 ・ICT支援員を配置し、学校におけるICT機器が教育活動においてスムーズで効果的に活用されるようサポートする。 ・学習者用デジタル教科書実証事業を活用して児童生徒の学びの充実を図る。				
事業の内容	・タブレット端末や電子黒板等を活用した効果的な教育実践を研究し、活用事例集を作成する。 ・ICT支援員による児童生徒や教師のICT機器活用状況の把握と支援を行う。 ・学習用デジタル教科書を活用し、学習内容の定着を図ったり、興味関心を高めたりすることの実現を図る。				
事業の対象	児童生徒				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	32,654	32,167	37,292	37,497	31,284

評価年度目標 (目指すべき姿)	児童生徒や教職員がタブレット端末や電子黒板を用いて、デジタル教科書等のデジタルコンテンツを学びに取り入れることで、学習の個別最適化を進め、学習の一層の定着を図る。				
実績・成果等 (数値)	・授業支援ソフトの活用と検証及びICT全体研修(美郷町教育を考える会) ・令和6年度美郷町小・中学校ICT活用事例集(授業支援ソフト)を作成した。 ・学校におけるICT機器の利活用が図られるよう、ICT支援員を1名配置した。 ・学習者用デジタル教科書を配備した。 ※令和6年度県学習状況調査質問紙から「ICT機器を週1回以上活用している」(県平均との比較) 小4:97.3%(+7.0) 小5:93.0%(+5.8) 小6:100%(+10.4) 中1:96.9%(+8.0) 中2:99.0%(+6.9) ※令和6年度県学習状況調査質問紙から「ICT機器を週1回、意見交換や調べ学習に活用している。」(県平均との比較) 小4:91.4%(+14.3) 小5:85.0%(+10.9) 小6:93.0%(+14.1) 中1:92.7%(+16.4) 中2:94.4%(+13.6)				

事業 の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できていない
内部評価	A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている	
判定説明 及び考察	町内小中学校では、全学級に電子黒板が整備され、各校において授業支援ソフトを活用しながらICT機器等の効果的な利活用が図られている。また、ICT支援員が町内小・中学校を巡回することにより、ICT機器の利活用が促進されている。今後は、ICT機器等のより一層の利活用促進に向けて、教職員のICT活用研修やICT活用事例集作成等によるICTを活用した授業づくりへの支援を通して、より質の高い「秋田の探究型授業」を目指して、学びの充実を図りたい。		
事業の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	内部評価のとおりに
------	---	--------	-----------

事業評価シート

事務事業名	奨学金返還助成事業	担当課名		教育推進課
		課長名		佐々木 寿人
総合計画の 施策名	豊かに暮らす定住・移住の実現	記入者	班	教育総務・指導班
			職・氏名	上席主査 高橋 穰
			電話番号(内線)	0187-84-4914(2406)

事業の目的	美郷町に住所を有し居住する就労者のうち、高等学校、高等専門学校、専門学校、短期大学または大学の在学中に貸し付けを受けた高校・大学生等奨学金を返還する者に対し、返還金の一部を助成することにより、人材の確保と定住促進を図る。				
事業の内容	助成対象者となる認定を受けた者に対して、助成対象期間中に返還した金額に3分の1を乗じて得た額を助成(上限額64,000円、最長5年間助成)				
事業の対象	美郷町に住所を有し居住する就労者のうち、高等学校、高等専門学校、専門学校、短期大学または大学の在学中に貸し付けを受けた高校・大学生等奨学金を返還する者				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	533	379	837	733	1,241

評価年度目標 (目指すべき姿)	町内全域への事業周知による助成対象者への申請促進と、認定を受けた者に対し返還金を助成することにより、人材の確保と定住促進を図る。				
実績・成果等 (数値)	・町広報紙やホームページ等で周知を図ったほか、県と情報共有により、県の助成制度認定者へダイレクトメールし、情報提供を行った。 ・令和6年度支給者数 15名 ・令和6年度助成対象認定者数 5名				

事業 の 評 価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)			
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない	
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)			
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない	
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない	
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)			
☐ 達成できている			☒ おおむね達成できている	☐ 達成できていない
内部評価	A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている		
判定説明 及び考察	・事業開始から4年目となり、継続して町内在住者に対する事業周知を図っており、申請者も増加している。 ・認定となった対象者に対し、滞りなく助成金を支給することができた。 ・今後も事業の周知及び助成を継続していくことで、人材の確保と定住促進を図りたい。			
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する			

外部評価	A	評価委員意見	内部評価のとおり
------	---	--------	----------

事業評価シート

事務事業名	タイ王国との中学生交流事業		担当課名		教育推進課
			課長名		佐々木 寿人
総合計画の 施策名	つながりが生まれる交流の創出		記入者	班	教育総務・指導班
				職・氏名	教育推進監 井合和人
				電話番号(内線)	0187-84-4914(2403)
事業の目的	タイ王国の言語・風習・文化等にふれながら異文化理解を深め、同年代の中学生と交流することにより、コミュニケーション力や国際感覚を身に付ける。				
事業の内容	美郷町と教育交流協定を締結しているタイ王国ノンタブリー県の中学生と、ホームステイ等を体験し、生きた英語にふれながら、生活様式、習慣等を学ぶ。併せて、タイ王国の自然、文化、歴史、産業等を学ぶ。				
事業の対象	中学校1～3年生				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	6,695	5,010	7,415	5,253	7,388
評価年度目標 (目指すべき姿)	異文化にふれ、視野を広げるとともに、他国の中学生と積極的に英語でのコミュニケーションを図ろうとする積極性や態度を育成する。				
実績・成果等 (数値)	・タイ王国訪問に生徒12人参加。(期間:8月19日～8月23日) ノンタブリー県アニューチャブラシットスクールで授業やタイ芸術・文化活動に参加。 ホストファミリー宅へ3泊。 ・タイ王国アニューチャブラシットスクールから12人来町。(期間:12月16日～12月20日) 美郷中学校で歓迎集会・授業体験等を実施。町内で餅つき・着付け等文化体験。 町外で雪遊び体験(田沢湖スポーツセンター)。 タイを訪問した生徒及び家族との交流及び生徒同士の交流会。 *「訪問交流は有意義だったか」 大変有意義92%・有意義8% *「交流を通して海外の人とのコミュニケーションに対する自信が高まったか」 とても高まった50%・どちらかといえば高まった42%				
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)				
	☒ 十分必要である		☐ おおむね必要である		☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)				
	☒ 十分寄与する		☐ おおむね寄与する		☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)				
	☐ 十分できている		☒ おおむねできている		☐ できていない
内部評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)				
	☒ 達成できている		☐ おおむね達成できている		☐ 達成できていない
判定説明 及び考察	訪問した生徒はもちろん、歓迎集会や授業交流等を通して、全生徒の異文化理解が深まる事業であった。今後もよりよい相互交流訪問を目指して継続実施することで、国際感覚やコミュニケーション力、英語力の育成につなげていきたい。				
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する				
外部評価	A	評価委員意見	内部評価のとおり		

事業評価シート

事務事業名	家庭教育事業	記入者	担当課名	生涯学習課
			課長名	中田 裕克
総合計画の 施策名	心を豊かにする生涯学習の創出		班	社会教育班
			職・氏名	班長 本間 忍
			電話番号(内線)	0187-84-4915(4103)

事業の目的	心身ともに健やかな子どもを育むために、家庭教育に関する学習機会を提供する。			
事業の内容	(1)就学時健診子育て講座 (2)親力アップ講演会 (3)幼児期家庭教育講座			
事業の対象	(1)就学時健診対象児の保護者 (2)小中学校PTA会員、認定こども園保護者会員、一般町民ほか (3)各こども園園児、保護者			
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算
	328	168	334	167
				令和7年度 予算 293

評価年度目標 (目指すべき姿)	家庭や地域全体で子育てや教育を応援し支えていくための学習機会を提供する。 各講座満足度80%以上			
実績・成果等 (数値)	(1)「私たちにある「共育」力～あきたのそこちから～」 講師 南教育事務所 高橋基樹氏、時田 敬氏、沢村正志氏 受講者数 102人(千畑 27人、六郷 36人、仙南 39人)、満足度 98.0% (2)「救えたはずの命から託された願い～出会いで未来が変わる・変えられる～」 講師 スクールカウンセラー 安永智美氏 受講者数 約250人、満足度 85.1% (3)「親子で楽しく！元氣いっぱいニコニコ親子体操！」講師 小田原栄子氏 「なかよし親子ダンス」講師 鑑 志穂氏 受講者数 444人(わくわく園138人、すこやか園146人、なかよし園160人)、満足度 92.2%			

事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
内部評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できていない
判定説明 及び考察	(1)県の協力により、講演を聞きながら保護者同士が話せるグループトークを実施した。来年度以降も同様の取り組みを行い、家庭教育の資質向上につなげたい。 (2)美郷地区少年保護育成委員会との共催により、公民館ホールで開催した。PTA連合会からも多数の参加があり、保護者の親力と家庭教育のスキルアップが期待される。 (3)親子で体を動かし、触れ合う時間ができて楽しかったとの感想が多かった。事業を継続し、家庭教育においてゲーム・スマホなどに依存しない子育て環境の整備に努めたい。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	内部評価のとおりに
------	---	--------	-----------

事業評価シート

事務事業名	青少年教育事業		担当課名	生涯学習課	
			課長名	中田 裕克	
総合計画の 施策名	心を豊かにする生涯学習の創出		記入者	班	社会教育班
				職・氏名	班長 本間 忍
				電話番号(内線)	0187-84-4915(4103)
事業の目的	子どもたちの健やかな成長の一助となるよう、様々な体験活動や学習の場を提供する。				
事業の内容	(1)わくわくスクール (2)コズミックカレッジ(JAXAプログラム) (3)自然観察登山【新規】 (4)地域学校協働本部事業の実施				
事業の対象	(1)、(2)参加を希望する小学生(回によっては保護者参加可能) (3)町内小中学校 (4)町内小学校				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	1,993	1,291	755	706	852
評価年度目標 (目指すべき姿)	子どもたちの「生きる力」を育むため、子どもたちが意欲的に参加し、学年や男女問わず楽しく学習できるプログラムを提供する。 (1)、(2)、(3)満足度80%以上 (4) 対前年比 +5%				
実績・成果等 (数値)	(1) ①スプリングスクール「JAL空育&国際教養大学見学ツアー」 参加者数19人(児童11人、保護者8人)、満足度100% ②サマースクール「陶芸に挑戦してみよう!」 満足度100%、参加者数34人(児童20人、保護者14人) (2) 水ロケットの制作・発射実験、デジタル地球儀による学習 満足度100%、参加者数25人 (3) 七滝山の自然観察 参加者19人、満足度100% (4) 学校協働活動ボランティア(授業支援、クラブ活動補助) 延べ協力回数238回(協力者数321人)、対前年比+32.2%				
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)				
	☒ 十分必要である		☐ おおむね必要である		☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)				
	☒ 十分寄与する		☐ おおむね寄与する		☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)				
	☒ 十分できている		☐ おおむねできている		☐ できていない
内部評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)				
	☒ 達成できている		☐ おおむね達成できている		☐ 達成できていない
判定説明 及び考察	(1)直接体験の機会として実施しており、参加者アンケートの満足度が非常に高く、青少年教育事業として定着している。今後も子どもたちの学習意欲を高める様々な体験プログラムを提供したい。 (2)宇宙に関する学習のほか、親子でのペットボトルロケット製作の体験活動を実施できた。未知なる体験活動を通して、子供たちの好奇心と探求心を高め、学習・体験意欲の向上につなげたい。 (3)新規事業だが、美郷の豊かな自然や地域に触れ、郷土愛を深める目的を概ね達成できた。今後も継続し、子どもたちが美郷の魅力を体感し、郷土に誇りをもった人材を育成できるよう努めたい。 (4)協力回数、人員ともに増加し目標を達成できた。地域と学校の結び付きを深める事業でもあることから、みさぼーとと連携し、協力内容の拡充やボランティア参加者の増加につなげたい。				
事業の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する				
外部評価	A		評価委員意見	内部評価のとおりに	

事業評価シート

事務事業名	成人教育事業		担当課名		生涯学習課
			課長名		中田 裕克
総合計画の 施策名	心を豊かにする生涯学習の創出		記入者	班	社会教育班
				職・氏名	班長 本間 忍
				電話番号(内線)	0187-84-4915(4103)
事業の目的	町民の余暇活動の充実を図り、いきいきと活力にあふれる地域社会を創るための学習講座を開催する。また、二十歳を機会に自らの成長過程を振り返りながら、成人としての自覚と誇りを喚起し、社会参加意識の高揚を図る。				
事業の内容	(1)生涯学習講座の開催 (2)スマートフォン教室の開催【新規】 (3)二十歳の集いの開催(実行委員主体による)				
事業の対象	(1)、(2)受講を希望する方 (3) 平成15年4月2日から平成16年4月1日生まれで美郷町在住の方 (美郷中学校卒業生の転出者含む)				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	1,176	864	1,294	836	1,201
評価年度目標 (目指すべき姿)	(1)生涯学習講座講座 継続の講座に加え、新規講座で学びの機会を増やすことで余暇活動の一層の充実を図る。また、生涯学習講座の自主サークル化を図る。(目標値 生涯学習講座の満足度80%以上、自主サークル化 50%以上) (2)スマートフォン教室 急速に発展するデジタル社会に対応するため、高齢者を中心に基本的な使い方を学ぶ。(目標値 満足度80%以上) (3)二十歳の集い 実行委員会を設置し企画運営に参画してもらうことで参加率を高める。(目標値 参加率80%以上)				
実績・成果等 (数値)	(1)①【新】水彩画講座(小原靖氏) 受講者数12人、満足度100% ②【新】家庭菜園講座(吉方衛氏) 受講者数24人、満足度96% ③アウトドア講座(美郷町ネイチャーガイド) 受講者数10人、満足度100% ④消しゴムハンコ講座(高橋祐子氏) 受講者数11人、満足度100% 全体満足度 99%、自主サークル化 なし (2)入門編、基礎編 各3回開催 参加数49人、満足度97.2% (3)式典、記念講演(ブラボー中谷氏)、記念映像の放映、記念撮影 参加率 76.5%(対象者179名中137名参加)				
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)				
	☒ 十分必要である		☐ おおむね必要である		☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)				
	☐ 十分寄与する		☒ おおむね寄与する		☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)				
	☒ 十分できている		☐ おおむねできている		☐ できていない
内部評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)				
	☐ 達成できている		☒ おおむね達成できている		☐ 達成できていない
判定説明 及び考察	(1)いずれの講座も、回を重ねるごとに、講師と受講生、受講生同士が打ち解け、よりよい講座になるよう協力し合う姿が見られた。今後も講座の開設にあたっては、住民のニーズ等をとらえ取り組むことが必要と考える。自主サークル化については、講師及び受講生と協議のうえ、講座終了後も活動できるよう支援に努め、講座のサークル化につなげたい。 (2)スマートフォンの基本的な使い方を学ぶことにより、デジタル機器の操作方法や安全な利用方法の取得につなげられた。今後も継続事業とし住民のデジタルデバインドの是正に努めたい。 (3)成年年齢の見直しにより二十歳の集いに移行して3年が経過し、事業として定着した状況にある。参加率は目標値にあと一歩及ばなかったが、来年度以降も実行委員と協力し参加率の向上に努めたい。				
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する				
外部評価	A	評価委員意見	一部目標達成できない事業もあるものの、事業内容も充実し、参加者の満足度も高いと判断される。		

事業評価シート

事務事業名	高齢者教育事業		担当課名		生涯学習課	
			課長名		中田 裕克	
総合計画の 施策名	心を豊かにする生涯学習の創出		記入者	班	社会教育班	
				職・氏名		班長 本間 忍
				電話番号(内線)		0187-84-4915(4103)
事業の目的	心身ともに元気で生きがいをもって暮らせるよう、楽しく仲間づくりができる学習や交流の場を提供する。					
事業の内容	美郷いきいき大学の開催					
事業の対象	60歳以上の町民で受講を希望する方					
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	
	408	69	272	60	95	
評価年度目標 (目指すべき姿)	高齢者が生きがいを持って継続して受講できるように、参加型の講演会や町外研修、創作活動等、魅力のあるプログラムを提供する。 目標値 満足度80%以上					
実績・成果等 (数値)	(1)開講式、講演「交通安全教室」(講師 美郷交番所長) 受講者数 65人、満足度 94.2% (2)介護予防教室認知症サポーター養成講座(講師 町福祉保健課、谷藤友子氏) 受講者数 66人、満足度 92.5% (3)町外研修(花巻市)「宮沢賢治記念館」「宮沢賢治童話村」 受講者数 51人、満足度 100% (4)講演「男女共同参画と防災」(講師 あきたクロスロード研究会) 朗読劇「まめでらが 話し会うのも ささえ会い」(美郷町男女共同参画住民懇話会) 受講者数 65人、満足度 87.2% (5)ものづくり「オリジナルカレンダー」(講師 美郷町生涯学習奨励員) 受講者数 59人、満足度 95.6% (6)閉講式、講演「美郷の魅力 再発見」(講師 美郷町ネイチャーガイド 高橋勇治氏) 受講者数 72人、満足度 94.3% ※受講者数 延べ378人、全体満足度94.3%					
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)					
	☒ 十分必要である		☐ おおむね必要である		☐ あまり必要でない	
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)					
	☒ 十分寄与する		☐ おおむね寄与する		☐ あまり寄与していない	
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)					
	☒ 十分できている		☐ おおむねできている		☐ できていない	
目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)	☐ 達成できている					
	☒ おおむね達成できている		☐ 達成できていない			
内部評価	A		優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている			
判定説明 及び考察	参加者が生きがいを持って意欲的に参加できる講座の開催に努め、「健康」、「ものづくり」、「朗読劇鑑賞」、「町外研修」、「交通安全・防犯」を中心に事業を実施した。アンケート調査を分析すると満足度は全体的に高く、中でも健康に関する講座に関心が高かった。今後も、受講者の参加意欲を高める魅力的なプログラムを提供するとともに、新規受講者の確保に努めたい。					
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する					
外部評価	A		評価委員意見	内部評価のとおり		

事業評価シート

事務事業名	芸術文化推進事業		担当課名		生涯学習課		
			課長名		中田裕克		
総合計画の 施策名	心を豊かにする生涯学習の創出		記入者	班	社会教育班/歴史文化財班		
				職・氏名		班長 本間忍/班長 山形博康	
				電話番号(内線)		0187-84-4915(4103)/0187-84-4040 (3401)	
事業の目的	住民の豊かな心を養い、芸術・文化に触れる機会を創出する。						
事業の内容	優れた芸術・文化に触れる機会を提供し、個々の個性と想像力を育む。 (1) 音楽コンサート(自衛隊音楽隊、ジャズコンサート、地域住民のためのコンサート) (2) 学友館特別展、野外芸術空間創出事業、「美郷の四季」絵画制作プロジェクト						
事業の対象	町内外の観覧を希望する方						
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度		
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算		
	9,073	7,957	12,031	12,278	22,734		
評価年度目標 (目指すべき姿)	住民が芸術文化に触れる機会を創出し、豊かな心を養う。 (1) 満足度80%以上 (2) 入館者数各展800人以上(2,400人以上)、満足度80%以上						
実績・成果等 (数値)	(1) 音楽コンサート 於:美郷町公民館 ①陸上自衛隊第9音楽隊コンサート (6月30日、入場者数397人、アンケート回答数345人・満足度99.4%) ②美郷ジャズオーケストラスペシャルコンサート (10月19日、美郷フェスタ内、入場者約300人) ③地域住民のためのコンサート[大萩康司クラシックギター・リサイタル] (11月23日、入場者数327人、アンケート回答数272人・満足度99.5%) (2) 学友館特別展 於:美郷町学友館 ①美郷町合併20周年記念特別展 新作えほん原画展 永田萌の描く「みさと」 (7月20日～8月25日、入館者数1,590人、アンケート回答数137人・満足度100%) (関連行事としてワークショップ18人、ギャラリートーク4回実施125人、講演会35人、サイン会2回 実施49人、絵本のおはなし会53人参加) ②「第4回美郷町所蔵品展」-小西正太郎から大川清一まで-つながるコレクション展 (10月26日～12月1日、入館者数576人、アンケート回答数132人・満足度100%) (関連行事としてギャラリートーク1回実施41人) ③秋田県美術展覧会第22回仙北地域展 (令和7年1月18日～2月23日、入館者数652人、アンケート回答数92人・満足度100%) (3) 所蔵品図録作成 所蔵品の資料整理と写真撮影を行った。 (4) 野外芸術空間創出事業 令和5年度に策定した美郷町野外芸術空間創出事業第1期基本計画に基づき、3名の制作候補 者に対し、マケット制作を依頼した。10月9日に行った制作候補者選考の結果、彫刻家の新谷一郎 氏に決定した。 (5) 「美郷の四季」絵画制作プロジェクト 令和6年度から9年度までの継続事業として、千畑・六郷・仙南3地区の四季それぞれの実在する 景観をモチーフに、千畑地区は絵本作家・イラストレーターの永田萌氏、六郷地区は洋画家の渋谷 重弘氏、仙南地区は日本画家の山田美知男氏に「夏」の制作を依頼した。						
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)						
	■ 十分必要である		□ おおむね必要である		□ あまり必要でない		
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)						
	■ 十分寄与する		□ おおむね寄与する		□ あまり寄与していない		
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)						
	□ 十分できている		■ おおむねできている		□ できていない		
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)						
■ 達成できている		□ おおむね達成できている		□ 達成できていない			
内部評価	A		優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている				

判定説明 及び考察	(1) ジャズコンサート、自衛隊音楽隊コンサート、地域住民のためのコンサートとも多数の入場者があり、住民の豊かな心を育むことができた。特に自衛隊音楽隊コンサートは応募者数が募集定員の約2倍と人気が高く、満足度も非常に高くなっている。 (2) 来館者の満足度向上を図るために実施した関連行事や作品解説は、大変好評をいただき高い満足度となっていることから今後も継続していきたい。 (3) 美郷の四季絵については、特別展開催期間外の展示公開を行った。芸術に親しみやすい環境を作り、来館者の記憶に留めるよう鑑賞機会を増やしていきたい。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する		
外部評価	A	評価委員意見	内部評価のとおり

事業評価シート

事務事業名	芸術文化交流促進事業	担当課名		生涯学習課	
		課長名		中田 裕克	
総合計画の 施策名	心を豊かにする生涯学習の創出	記入者	班	社会教育班	
			職・氏名	班長 本間 忍	
			電話番号(内線)	0187-84-4915(4103)	
事業の目的	友好都市交流自治体の人や作品などの交流を通して町芸術文化活動の活性化を図り、地域住民の芸術文化理解、及び相互交流を深めることを目的とする。				
事業の内容	友好都市における生涯学習団体、各種サークル間の活動紹介や情報発信、作品の交換展示。				
事業の対象	交流を通じて活動強化を図りたい町内サークル・団体の会員等				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	478	0	154	108	254
評価年度目標 (目指すべき姿)	芸術文化団体・自主学習サークル等の活動紹介や情報発信、他自治体との交流を促進する。 目標値: 作品の交換展示、人的交流の実施				
実績・成果等 (数値)	美郷フェスタにおいて、友好自治体の大田区「大森麦わら細工の会」より「麦わら細工」の展示・紹介を行った。 展示期間10/19～20、作品数14点				
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)				
	☐ 十分必要である		☒ おおむね必要である		☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)				
	☐ 十分寄与する		☒ おおむね寄与する		☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)				
	☐ 十分できている		☒ おおむねできている		☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)				
☐ 達成できている		☒ おおむね達成できている		☐ 達成できていない	
内部評価	B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が上がっている			
判定説明 及び考察	自主学習サークルによる他自治体との交流の一環として大田区の麦わら細工サークルの作品展示を実施し、町芸術文化団体の活動・制作意欲の活性化につながった。今後は、作品展示に加え麦わら細工サークル会員等との人的な交流に向けた取り組みが望まれる。				
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する				
外部評価	B	評価委員意見	「大森麦わら細工サークル」との交流を接点として相互交流や他団体との交流に発展することを期待する。		

事業評価シート

事務事業名	芸術文化団体支援事業	担当課名		生涯学習課
		課長名		中田 裕克
総合計画の 施策名	心を豊かにする生涯学習の創出	記入者	班	社会教育班
			職・氏名	班長 本間 忍
			電話番号(内線)	0187-84-4915(4105)

事業の目的	芸術文化団体の活動を支援する。				
事業の内容	美郷町芸術文化協会やかけ唄保存会などの芸術文化団体の事業に対して補助を行う。				
事業の対象	芸術文化団体				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	372	372	372	372	372

評価年度目標 (目指すべき姿)	団体の事業に対して補助金を交付することで、団体の活動が活発化する。				
実績・成果等 (数値)	・美郷町芸術文化協会補助金 300,000円 補助金を活用し、芸能発表会の実施、芸術文化賞の選考・授与、会報の発行・配布、会員研修などを行った。令和6年度は設立20周年の年でもあり、美郷フェスタ会場において「芸文協体験コーナー」を設けたほか、20周年記念誌の発行も行った。 ・かけ唄保存会補助金 72,000円 補助金を活用し、熊野神社で全県かけ唄大会が開催された。				

事業 の 評 価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できていない
内部評価	B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明 及び考察	町芸術文化協会への助成を通して加入団体の活動が活発化し、会員相互の交流が図られた。また、芸能発表会の実施、会報「芸文協だより」の発行や芸術文化賞の選考・授与等により、町民の芸術文化への関心や活動意欲も高まった。 かけ唄保存会については、全県かけ唄大会を開催し、伝統芸能の保存につながっている。 今後も、芸術文化団体のさらなる活性化のため、支援を継続していきたい。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	内部評価のとおり
------	---	--------	----------

事業評価シート

事務事業名	美郷カレッジ開催事業	担当課名		生涯学習課	
		課長名		中田 裕克	
総合計画の 施策名	心を豊かにする生涯学習の創出	記入者	班	社会教育班	
			職・氏名	班長 本間 忍	
			電話番号(内線)	0187-84-4915(4103)	
事業の目的	美郷町内外の方が、創造的で充実した人生を送り、地域づくりや地域文化の創造に主体的に参加していただくための学習機会を提供する。				
事業の内容	美郷カレッジの開催(6月22日から9月14日まで 計5講座)				
事業の対象	町内外で受講を希望する方				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	1,060	900	1,369	997	801
評価年度目標 (目指すべき姿)	地域づくりや地域文化創造に寄与する人づくりのため、魅力ある学習機会を提供する。 目標値 講座満足度80%以上、受講者数240人以上				
実績・成果等 (数値)	・「ツキノワグマの話をしよう～秋田のくらしを守るために～」近藤麻実氏 (6月22日開催、受講者66人、アンケート回答数66人・満足度100%) ・【美郷町合併20周年記念事業 美郷カレッジ特別講座 JAXA宇宙飛行士講演会】 「夢見る力の素晴らしさ『深海へ、そして宇宙へ』」 (7月6日開催、受講者251人、アンケート回答数177人・満足度100%) ・「自分の足で凛々しく立つ～ブリキキュアとキッズアニメの変遷～」鷲尾 天氏 (7月13日開催、受講者48人、アンケート回答数48人・満足度97.7%) ・「子育て支援と地域コミュニティ～健康寿命の延伸と子育ての意義～」矢口悦子氏 (7月27日開催、受講者数46人、アンケート回答数46人・満足度100%) ・「コンテンポラリーデザイン～デザインの新たな可能性の探究～」 we+(林 登志也氏、安藤北斗氏)(9月14日開催、受講者39人、アンケート回答数36人・満足度92.3%) ※受講者数450人、全体満足度98%、				
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)				
	■ 十分必要である		□ おおむね必要である		□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)				
	■ 十分寄与する		□ おおむね寄与する		□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)				
	■ 十分できている		□ おおむねできている		□ できていない
目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)	■ 達成できている		□ おおむね達成できている		□ 達成できていない
内部評価	A		優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている		
判定説明 及び考察	「立(りつ・たつ)」を共通テーマとして4講座を開催したほか、20周年記念事業の一環としてJAXA宇宙飛行士講演会を特別講座と位置づけて開催した。身近な内容から専門的分野まで、各界の第一線で活躍する講師陣を招聘することにより、受講者の知的好奇心が掻き立てられていることがアンケート結果やリピーターの多さから読み取れる。また、リモート会場(中央ふれあい館、北ふれあい館)も設置し、受講者の利便性にも配慮した。継続受講の希望の有無についても、アンケート回答者のほぼ全員が「希望する」「講師やテーマによって希望する」と回答しており、事業への期待度が非常に高いことから、講座内容の充実を図りながら事業を継続していきたい。				

事業の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する		
外部評価	A	評価委員意見	コロナ禍を経験したことによるリモート会場設置など 受講者への配慮の工夫が評価できる。他の事業でも 応用できるのではないか。

事業評価シート

事務事業名	伝統行事等伝承事業		担当課名		生涯学習課	
			課長名		中田 裕克	
総合計画の 施策名	心を豊かにする生涯学習の創出		記入者	班	歴史文化財班	
				職・氏名		主査 畠山圭枝子/主査 高橋 茜
				電話番号(内線)		0187-84-4040(3405)
事業の目的	伝統行事を地域で継承することで、地域活動の活性化を図る。					
事業の内容	(1) 六郷の七夕まつり(舟ッコ流し)の開催 (2) 六郷のカマクラ行事継承会への補助					
事業の対象	(1) 六郷地区各町内会(子ども会) (2) 六郷のカマクラ行事継承会					
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	
	1,956	1,769	2,016	1,837	1,902	
評価年度目標 (目指すべき姿)	郷土の誇りである伝統行事が地域で継承され、その活動を通じて地域活動が活性化 する。					
実績・成果等 (数値)	(1) 8月3日から4日にかけて六郷地区18町内中13町内の子ども会で実施した。4日の川 入りは、大人・子ども合わせて約320人が参加した。 (2) カマクラ行事を保存・継承・運営団体である六郷のカマクラ行事継承会に対して、実 施に係る費用の一部として団体に補助金(110万円)を交付した。2月9日から15日にか けて六郷町内でカマクラ行事が開催され、打ち手200人を超える2年ぶりの竹うちを実施し た。					
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)					
	☒ 十分必要である		☐ おおむね必要である		☐ あまり必要でない	
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)					
	☒ 十分寄与する		☐ おおむね寄与する		☐ あまり寄与していない	
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)					
	☐ 十分できている		☒ おおむねできている		☐ できていない	
目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)	☐ 達成できている					
	☒ おおむね達成できている		☐ 達成できていない			
内部評価	B		優れた取り組みがいくつかあり、成果が上がっている			
判定説明 及び考察	(1) 少子化の影響で行事に参加できない(実施できない)町内子ども会があり、伝統行事の継 続が難しくなっているため、地域全体への呼びかけが必要と考える。 (2) カマクラ行事継承会により、一連の行事を実施することができた。今後も各町内の意見を 踏まえながら、時代の変化に合わせつつ、伝統が継承されるよう支援していきたい。					
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する					
外部評価	B		評価委員意見	内部評価のとおり		

事業評価シート

事務事業名	わら細工文化事業		担当課名	生涯学習課	
			課長名	中田 裕克	
総合計画の 施策名	心を豊かにする生涯学習の創出		記入者	班	歴史文化財班
				職・氏名	主査 高橋 茜
				電話番号(内線)	0187-84-4040(3405)
事業の目的	地域の伝統文化である「わら細工」の保存と伝承を図る。				
事業の内容	わらの文化交流事業の開催				
事業の対象	町内外の参加を希望する方				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	784	474	734	470	543
評価年度目標 (目指すべき姿)	失われつつあるわら文化の保存と継承を目的に「わらの文化交流事業」を開催し、多くの方にわら文化の大切さを再認識してもらう。				
実績・成果等 (数値)	3月1日に住民活動センターにおいて、第7回「わらの文化」交流の集いを開催し、町内外から154人(午前84人、午後70人)の参加があった。郷土史研究家小松和彦氏による人形道祖神に関する講演、千葉大学名誉教授宮崎清氏によるわら文化に関する基調講演、美郷わらの会による活動報告、工房ストロー主宰高橋伸一氏によるわら細工体験を実施した。 アンケート回答数47人・満足度90.9%。				
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)				
	☒ 十分必要である		☐ おおむね必要である		☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)				
	☒ 十分寄与する		☐ おおむね寄与する		☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)				
	☒ 十分できている		☐ おおむねできている		☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)				
☒ 達成できている		☐ おおむね達成できている		☐ 達成できていない	
内部評価	A		優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている		
判定説明 及び考察	わら文化を次世代に繋いでいく意識を高めることができた。また、SDGs意識や若い世代の関心の高さをうかがい知ることができた。美郷の手仕事として、伝統を引き継いでいく必要がある。				
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する				
外部評価	A		評価委員意見	内部評価のとおり	

事業評価シート

事務事業名	ブックスタート事業		担当課名		生涯学習課
			課長名		中田 裕克
総合計画の 施策名	次代を担う子どもの育成		記入者	班	歴史文化財班
				職・氏名	主査 畠山圭枝子
				電話番号(内線)	0187-84-4040(3405)
事業の目的	乳児と保護者が絵本を介してふれあうきっかけを作り、行政や地域が支えながら健やかに子育てできる環境を提供する。				
事業の内容	美郷町内に住民登録している7ヵ月児、10ヵ月児の乳児および保護者に絵本を手渡し、家庭での読みきかせや絵本遊びを推進する。				
事業の対象	美郷町に住民登録している7ヵ月児、10ヵ月児の乳児とその保護者				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	404	283	312	237	368
評価年度目標 (目指すべき姿)	7ヵ月児、10ヵ月児とその保護者に絵本を贈ることで、親子で本に親しむことをきっかけとして、触れ合い、語り合うことで、親子のきずなを一層深める。				
実績・成果等 (数値)	・毎月行われる乳幼児健診の際に贈呈した。 7ヵ月児47人(ブックスタートパック)、10ヵ月児48人(選択絵本2冊) ・民生委員、読み聞かせボランティアと共同で行い、町の子育て支援に関する情報提供も行った。				
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)				
	■ 十分必要である		□ おおむね必要である		□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)				
	■ 十分寄与する		□ おおむね寄与する		□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)				
	■ 十分できている		□ おおむねできている		□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)				
■ 達成できている		□ おおむね達成できている		□ 達成できていない	
内部評価	A		優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている		
判定説明 及び考察	保護者と個別に対話しながら絵本を贈呈し、ブックスタートの意義を理解していただいた。受け取ったその場で絵本遊びを始めるなど保護者からも好評を得ており、絵本をきっかけとした親子のふれあい創出や読書推進に寄与している。また、保護者同士がつながる場にもなっており、子育て支援の一助となるよう、関係者の協力を得ながら事業を継続していきたい。				
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する				
外部評価	A		評価委員意見	内部評価のとおり	

事業評価シート

事務事業名	読書・視聴覚環境向上事業	担当課名		生涯学習課	
		課長名		中田 裕克	
総合計画の 施策名	心を豊かにする生涯学習の創出	記入者	班	歴史文化財班	
			職・氏名	主査 畠山圭枝子	
			電話番号(内線)	0187-84-4040(3405)	
事業の目的	活字離れや読書離れが問題となっていることから、読書への興味を喚起し、「読む・考える・表現する」ための習慣づけの一助とする。				
事業の内容	(1) 読書・図書館に関連したイベント等の開催 (2) 図書館内に視聴覚ブースの設置				
事業の対象	(1) 参加を希望する方 (2) 図書館利用者				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	734	631	477	494	401
評価年度目標 (目指すべき姿)	(1) 美郷町読書フェスタ等関連事業を実施し、幅広い層に読書への関心を喚起するとともに本に親しんでもらう。 (2) 視聴覚ブースの活用				
実績・成果等 (数値)	(1) 関連事業の実施 ・10月6日 手づくりしかけ絵本教室(参加者26人、満足度100%) ・10月6日 美郷町読書フェスタ(参加者数延べ146人、満足度88.9%) ・10月6～14日 「心に残った本」紹介コンクール(応募数834点) (2) 視聴覚ブース ・旧町村PR映像や映画、クラシック音楽など208点を視聴可能。 ・令和6年度末利用者数 合計91人				
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)				
	☒ 十分必要である		☐ おおむね必要である		☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)				
	☒ 十分寄与する		☐ おおむね寄与する		☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)				
	☒ 十分できている		☐ おおむねできている		☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)				
☒ 達成できている		☐ おおむね達成できている		☐ 達成できていない	
内部評価	A		優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている		
判定説明 及び考察	(1) 町民同士の交流もでき、本に親しみを持ってもらうことができた。今後も読書習慣につながる事業の開催と、魅力ある図書館の環境整備を行う必要がある。 (2) 利用者増加のためのPRと、視聴できる映像資料等の充実を図っていく必要がある。				
事業の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する				
外部評価	A		評価委員意見	内部評価のとおり	

事業評価シート

事務事業名	文化財保護事業		担当課名		生涯学習課
			課長名		中田 裕克
総合計画の 施策名	心を豊かにする生涯学習の創出		記入者	班	歴史文化財班
				職・氏名	主任 畠山昂大
				電話番号(内線)	0187-84-4040(3402)
事業の目的	町内の史跡等重要なものについて、その保存及び活用のため必要な措置を講じ、郷土の歴史や文化について学ぶ場所を提供する。				
事業の内容	町内史跡等の維持管理、文化財等保存修復処理、文化財保護に関する啓発。				
事業の対象	指定文化財、収蔵施設				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	3,886	3,318	5,090	6,017	2,109
評価年度目標 (目指すべき姿)	町指定文化財の管理や歴史資料の修復等を行い、町の歴史について学習できる環境を整備する。				
実績・成果等 (数値)	- 文化財等保存修復処理 張伯英「中国山水詩画」、柴田松谷「中国童子図」表装替え - 指定文化財の施設管理 国・県・町指定文化財の管理、草刈り等 - 関田円型分水工の説明案内板の更新、広報パンフレットの作成				
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)				
	☒ 十分必要である		☐ おおむね必要である		☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)				
	☒ 十分寄与する		☐ おおむね寄与する		☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)				
	☐ 十分できている		☒ おおむねできている		☐ できていない
内部評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)				
	☐ 達成できている		☒ おおむね達成できている		☐ 達成できていない
判定説明 及び考察	B 優れた取り組みがいくつかあり、成果が上がっている				
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する				
外部評価	B	評価委員意見	内部評価のとおり		

事業評価シート

事務事業名	埋蔵文化財調査事業	担当課名		生涯学習課
		課長名		中田 裕克
総合計画の 施策名	心を豊かにする生涯学習の創出	記入者	班	歴史文化財班
			職・氏名	主任 畠山昂大
			電話番号(内線)	0187-84-4040(3402)

事業の目的	町内に所在する遺跡を良好な状態で後世に残し、発掘調査によって得られた遺跡情報や出土した遺物を町民の学習の場に活用する。				
事業の内容	後三年合戦関連遺跡および石神ため池整備事業実施に伴う試掘調査				
事業の対象	長岡森館、陀弥長根遺跡				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	2,606	2,400	2,724	1,631	2,692

評価年度目標 (目指すべき姿)	後三年合戦関連遺跡の調査実施による遺跡の年代観確定および金沢4地区農村地域防災減災事業(石神ため池)に伴う試掘調査による町内埋蔵文化財の保護				
実績・成果等 (数値)	- 長岡森館は6月から7月にかけて試掘調査を実施し、溝状遺構や柱穴を確認した。7月13日に現地説明会を開催し34名が参加し、調査で分かった遺構・遺物について説明した。 - 石神ため池整備事業に係る陀弥長根遺跡の試掘調査を8月に実施し、柱穴様ピットや多数の礫を確認した。				

事業 の 評 価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できていない
内部評価	B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明 及び考察	文化財保護法に基づき実施しており、引き続き、適切に調査する必要がある。また、調査の内容については、歴史民俗資料館で展示公開を行い、史資料の充実を図っていきたい。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	内部評価のとおり
------	---	--------	----------

事業評価シート

事務事業名	民俗文化財継承活動推進事業	担当課名		生涯学習課
		課長名		中田 裕克
総合計画の 施策名	心を豊かにする生涯学習の創出	記入者	班	歴史文化財班
			職・氏名	主任 畠山昂大
			電話番号(内線)	0187-84-4040(3402)

事業の目的	町内の指定民俗文化財となっている「六郷のカマクラ」(国指定)及び「わら細工及び製作道具」(県・町指定)に関連するわら文化の記録映像を作成し、伝統文化の安定した継承を図る。				
事業の内容	「六郷のカマクラ」及び「わら文化(わら細工・ショウキ様)」の歴史や活動、準備や祭りなど、作法含め記録映像を制作する。(1作品60分程度、令和7年度完成予定)				
事業の対象	町民、六郷のカマクラ行事継承会、美郷わらの会、本堂城跡管理組合				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	941	887	1,035	963	1,254

評価年度目標 (目指すべき姿)	「六郷のカマクラ行事」及び「わら文化」の行事や伝承活動を取材し、映像撮影する。				
実績・成果等 (数値)	「カマクラ行事」について、行事関係者インタビュー、鳥追い小屋づくり、天筆掲揚、松ニオ、竹うちなどを取材し、映像撮影した。 「わら文化」について、関係者インタビュー、わら細工に使用する道具や美郷わらの会の活動を取材し、映像撮影した。				

事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
内部評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できていない
判定説明 及び考察	人口減少や少子高齢化、地域のつながりの希薄化、祭りへの参加者減少等により、行事の継承が難しくなっているため、保存継承を目的に準備から一連の行事そのものを映像記録として残す重要性はますます高まっている。今後、記録映像を活用した公開・普及活動を円滑に行うため、記録映像の上映会や新たな担い手への研修映像(観る教材)として活用したい。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	記録映像の今後の活用に期待する。
------	---	--------	------------------

事業評価シート

事務事業名	少年スポーツ振興事業		担当課名	生涯学習課	
			課長名	中田裕克	
総合計画の 施策名	心を豊かにする生涯学習の創出		記入者	班	スポーツ振興班
				職・氏名	班長 梅川茂男
				電話番号(内線)	0187-84-4916(4301)
事業の目的	スポーツ少年団の活動を通して、団員の健全育成と単位団の育成を図る。また、駅伝大会を通して、中学生の健全な精神と体力の向上を図る。				
事業の内容	・スポーツ少年団の運営、20単位団への育成費の助成 ・県大会以上の出場チーム等に対し派遣費の助成 ・中学校新人駅伝競走大会の開催				
事業の対象	・スポーツ少年団及び団員 ・美郷中学校生徒				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	2,763	2,648	2,619	2,716	2,611
評価年度目標 (目指すべき姿)	スポーツ少年団の活動を支援し、スポーツを楽しみながら多様な価値観を認め合う機会を与え、青少年の健全育成を推進する。また、中学生の心身の健やかな成長を期し、駅伝大会を開催する。				
実績・成果等 (数値)	・スポーツ少年団 20団体 340人が団員登録 ・選手派遣費補助 10団体・個人 12大会へ補助 ・10月22日に男子15校、女子14校が参加し、「第20回美郷町中学校新人駅伝競走大会並びに第17回美郷町中学校新人女子駅伝競走大会」を開催。美郷中学校は女子が優勝、男子が4位と好成績を収めた。				
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)				
	☒ 十分必要である		☐ おおむね必要である		☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)				
	☒ 十分寄与する		☐ おおむね寄与する		☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)				
	☐ 十分できている		☒ おおむねできている		☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)				
☒ 達成できている		☐ おおむね達成できている		☐ 達成できていない	
内部評価	A		優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている		
判定説明 及び考察	スポーツ少年団の活動は保護者の協力体制の充実により活発に行われ、活躍も目覚しく各種大会で好成績を収めており、子どもたちの心身の向上や社会性を育む一助となっていると考えられる。駅伝大会も「走る美郷」の基礎となる事業である。今後も、スポーツを楽しむという概念をもって引き続き青少年の健全育成を推進していく必要がある。				
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する				
外部評価	A		評価委員意見	内部評価のとおり	

事業評価シート

事務事業名	スポーツ活動支援事業	担当課名		生涯学習課	
		課長名		中田裕克	
総合計画の 施策名	心を豊かにする生涯学習の創出	記入者	班	スポーツ振興班	
			職・氏名	班長 梅川茂男	
			電話番号(内線)	0187-84-4916(4301)	
事業の目的	スポーツに関する情報や機会を提供し、継続的な生涯スポーツの推進を図る。また、各種スポーツ大会を通して交流機会を創出し、コミュニティの醸成と運動意識の向上を図る。				
事業の内容	・ニュースポーツ教室、ウォーキング教室、水泳教室、スキー教室の開催 ・各種町民スポーツ大会、ニュースポーツ大会、スポーツデーの開催 ・町スポーツ協会の運営、育成費の助成				
事業の対象	町民及び町スポーツ協会並びに加盟スポーツ団体				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	3,991	3,773	3,949	3,893	3,953
評価年度目標 (目指すべき姿)	生涯スポーツ振興のためにスポーツ協会の運営を支援し、加盟スポーツ団体の組織力強化に努める。また、スポーツ協会及び加盟団体によるスポーツ教室や各種大会の開催を促進し、町民の健康増進を図る。				
実績・成果等 (数値)	・町スポーツ賞の授与とスポーツ協会を通して、18の加盟団体に育成費の助成を行った。 ・14競技の町民スポーツ大会を開催し、1,675名が参加した。 ・ウォーキング教室を開催し、屋外12回(234人)、屋内43回(592人)、延べ826人が参加した。 ・スポーツ教室(卓球、バドミントン、ユニカール等)を開催し、43回、延べ756人が参加した。 ・水泳教室を開催し、4回 小学生1年～3年生22人が参加した。 ・スキー教室を開催し、3回 小学校1～2年生40人が参加した。 ・10月14日を美郷町スポーツデーとし、町内11のスポーツ施設を無料開放して、523人が参加した。(アンケート回答数311人・満足度99.7%)				
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)				
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない		
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)				
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない		
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか。)				
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない		
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)				
☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できていない			
内部評価	B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が上がっている			
判定説明 及び考察	町スポーツ賞は、町民がスポーツに励む一つのきっかけともなるため、継続する必要がある。スポーツ協会加盟団体は、会員の高齢化傾向も見受けられるが、多くの町民がスポーツに参加できる環境づくりに努めており、今後も町スポーツ協会に支援することにより、生涯スポーツの浸透を図っていく必要がある。 美郷町スポーツデーについては、当日参加者が前年度の約2.5倍となり、SNS等での事業宣伝も効果が現れた。いきいきスポーツ健康の町宣言に基づく重要な事業であると捉え、アンケート調査をもとにした各年代層へのアプローチなど、引き続き開催内容を検討し事業規模の拡大を図りたい。				
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する				
外部評価	B	評価委員意見	チャレンジデーの参加中止に代わって実施されたスポーツデーの周知を強化し、町民が気軽にスポーツに参加できる環境を広げていただきたい。		

事業評価シート

事務事業名	連携企業スポーツ活動推進事業	担当課名		生涯学習課	
		課長名		中田裕克	
総合計画の 施策名	心を豊かにする生涯学習の創出	記入者	班	スポーツ振興班	
			職・氏名	班長 梅川茂男	
			電話番号(内線)	0187-84-4916(4301)	
事業の目的	ヨネックスと連携し、スポーツ教室による競技力の向上と生涯スポーツへの取組を推進する。また、モンベルと連携し、登山教室による美郷中学生への情操教育に寄与する。				
事業の内容	・一流のアスリートによるスポーツ教室の開催 ・美郷中学生への登山教室の開催				
事業の対象	町民				
事業費 (千円)	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算
	1,368	510	1,087	501	724
評価年度目標 (目指すべき姿)	個々の体力やライフスタイルなどに応じてスポーツに取り組む習慣を身につけるため、様々なスポーツ種目に親しめる機会を創出する。				
実績・成果等 (数値)	【ヨネックス連携事業】 ・6月2日に、ヨネックスアドバイザースタッフで日本バドミントン協会広報部のオリンピック、小椋久美子氏を講師に迎え、町バドミントン協会協力のもと、総合体育館リオスを会場に、親子バドミントン教室を開催。町バドミントンスポーツ少年団関係者106人、町民等34人が参加。(参加者アンケートによる満足度100%) ・8月3日に同社社員でソフトテニスの国内大会で活躍している小松芹奈氏を講師に迎え、美郷中学校テニスコートを会場にソフトテニス教室を開催。美郷中学校の男女ソフトテニス部23人と町民等22人が参加。(参加者アンケートによる満足度100%) 【モンベル連携事業】 ・10月2日、参加を希望した美郷中学生8人を対象に、モンベルと美郷山岳会の協力を得て登山の基礎や必要な道具など、本番に向けた登山講座を開催。10月17日には、中学生や関係者合わせて14名が参加し、秋晴れのもと真昼山峰越口より現地登山を実施。(参加者アンケートによる満足度100%)				
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)				
	☒ 十分必要である		☐ おおむね必要である		☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)				
	☒ 十分寄与する		☐ おおむね寄与する		☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)				
	☒ 十分できている		☐ おおむねできている		☐ できていない
目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)	☐ 達成できている				
	☒ おおむね達成できている		☐ 達成できていない		
内部評価	A		優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている		
判定説明 及び考察	スポーツ教室は一流アスリートの直接指導により競技者の技術習得や士気の高揚につながった。登山教室は、アンケート結果からも、美郷町の大自然のなか、忍耐や協力、達成感や充実感を感じることのできる貴重な事業であると考え。しかしながら、中学生全体数からの参加者数を考慮すると、参加者増につながる事業計画の検討も必要と考える。いずれ今後も連携企業の協力を得て、スポーツの魅力発信と競技力向上を図る機会を創出していく必要がある。				
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 継続実施する ☐ 改善見直しを検討する ☐ 休止、廃止を検討する				
外部評価	A		評価委員意見	内部評価のとおり	